平新報

發行日毎月三回 五ノ日發行
編輯兼發行印刷人 山野邊庄吉
發行所 福島平町二丁目二番地 平新報社
廣告料五號十二字詰 一行一回五十錢 場所指定 倍増
一部定價金十錢 送料五厘

磐中卒業生を出す
廿九回貳千四百五拾人
新同窓百六拾二名

平町在縣立磐城中學校は七日第二十九回卒業生の卒業式を擧行せるが今期卒業生百六十二名を出して居る、今二十八回迄の卒業生貳千貳百八拾七人に合すれば貳千四百四拾九人の卒業生を出した事になる

第二十九回卒業生（イロハ順）

今田碧 石井誠一
猪野範明 猪狩吉直
市川善一 市毛俊明
飯尾梅雄 惠原猪和男
箱崎行雄 箱崎安
箱崎基義 箱崎精史
橋本剛 芳賀三男
長谷川壽一 畑基
西山總一 新田友四郎
西尾邦明 西牧繁藏
新妻英高 新妻榮
星山政吉 越野賢
外山考一 東條光雄
千葉茂 沼田喜信
大和田一美 大和田克巳
大和田政明 大竹榮一
岡部卓司 岡部純宜
大角嚴 折笠彰
小澤昌久 大越一二三
面川勝雄 大津賀幸平
渡邊金一郎 加藤邦廣
柏原英夫 金子德太郎
上遠野信夫 金成直惠
籠倉五郎 菅野一
吉田武男 吉田愛司
吉田逵男 吉田致
吉澤沖次郎 吉川善一
高荻亭 高荻藤一
高橋精玄 高橋廣
高橋忠 高木英
高木十郎 高久孝
高杉清壽 竹元晁敎
大門俊雄 俵欣次
根本三右衛門 根本三子雄
根本榮 中野福藏
中田三郎 永山長久
中澤政衛 中村具瞻
永久保正雄 臼井四郎
内田政義 遠藤亥三男
海老根芳郎 野崎理夫
草野信男 草野仁
隈元國博 熊谷賢
柳内金介 山野邊榮
山部正守 矢島精雄
松本多門 松本三夫
松本一郎 松本綠
松本健次 松坂清助
松崎長治右衛門 松崎英二
間宮春雄 松村幸也
馬目一 增井義榮
舟田義孝 古市壽平
古河隆夫 國府田一良
鴻池正恒 小林行雄
小宅修 上坂正勝
小泉伊三郎 小泉潤次
權瓶貞雄 赤津永
赤津佐武郎 安島峯二
會田清明 秋田信男
齋藤久エ門 坂本一郎
佐藤定翁 佐藤光信
佐藤義雄 佐藤八郎
佐藤德雄 佐川榮光
佐川公一 佐川彥兵衛
酒井出 鷺新兵衛
桐谷哲夫 木村正俊
木村五郎 結城益美
水野忠護 水野峯雄
水野昇平 柴野貞夫
白鳥謹一 篠原理男
柴田隆一 重田景治
椎名勇雄 四家達
鹽正 白土二郎
比佐慶藏 蛭田仁
久田正 樋口久隆
平松良四郎 平澤藤次
諸橋四郎 關原幸
鈴木千里 鈴木新八郎
鈴木幸太郎 鈴木昇
鈴木嘉勝 鈴木二郎
鈴木又兵衛 鈴木喜平
菅波榮 助川昇

以上百六十二名
尙ほ今期の優良生左の如くである。

一、學業操行優良生徒（六名）
白鳥謹一 高橋廣
菅野一 會田清明
鈴木昇 佐川彥兵衛

一、在學五ヶ年間組長勤續（一名）
菅野一

一、在學五ヶ年精勤生（九名）
重田景治 小林行雄
新妻英高 外山孝一
芳賀三男 權瓶貞男
平澤藤次 猪野範明
永山長久

一、本學年間精勤生徒（六名）
佐川彥兵衛 折笠彰
關原幸 小澤昌久
會田清明 鹽正

音信交換

横濱市日本郵船株式會社支店氣附北支那航路勝浦丸　柳内秀吉

御別れしてから半年は立ちました

多忙のため御無沙汰して誠に相濟みません

只今私は北支那航路に從事してゐます

冬の北支那航路は氷に閉されて實に慌憀たるものであります、そして大陸からの風は銳刄の如く吹雪さい交ひて船乘の悲哀をまざ〳〵感じさせられました

然し沈む日の邊に西の方指して行くとき、私にはたゞ靜かな泊り、傳說の都、天津へと憧れ進むのみで御座います

そこには赤き酒が御座います、踊り子の足づれ、老水夫の物語り甲走る胡弓の響そして黑塗の卓圍みて朋男等が酒酌み交はし謳ひ出づるジプシーの歌のゆるい調べ或は古酒の香り港の夜の思ひ出はつぎからつぎへと聯鎖されて一卷の綺卷物語りであります

排日の牙城、天津に於て萬丈の氣焰を擧げてこゝ一方邦家の爲に微力を盡して先驅者『パイオニヤ』の名を恥しめず大元氣で働いて居りますが他事ながら御安心下さい、

因みに氏は小名濱の人、磐中廿一回卒業生にして商船校出身二等運轉士である、氏の遇吟に曰く

苦卒成業更如羊
男兒不惑富兼貧
冷眼時流暫屈身
隨處青山任此身
終日海上忘世事
今日此行非折貿
胸中只有至恩人
扶搖萬里待風人

×

仙臺市　加藤利貞

×

……略……一行の廣告でも故鄕からの便りと思へばなつしく感ぜられます、　……略……

新卒業生に示さんとて

高濱秉義

一、谷を出て高きに遷る鶯は誰にきけとて聲や立つらん

二、業卒へて歸る子よりもたらちねの親の喜びいやまさるらん

退隱後自況

高濱秉義

梅花開處異香饒
閑坐舉杯村酒澆
頻聽政爭非我事
三猿故學背風潮

知人消息

◆佐藤一郎氏　藤本ビルブローカー東京支店に勤務中であつた氏は今回同銀福島支店に轉勤、自宅は福島市會根田字田尻七である

◆荒川精一氏　麻布區富士見町より東京府下目黑町中目黑一二四六に轉住された

◆齊北洋氏　福島市の氏は今回同志と共に福島夕刊新聞を發行すべく準備中であると。

◆齋藤清吾氏　本郡磐崎村下船尾出身なる氏は今回高知縣幡多支廳長より本縣會津支廳長に長澤淑人氏の後任として來任された。

◆青天目源一郎氏　平町住吉屋本店の氏は山崎與三郎氏夫妻の媒酌にて湊町川上鶴之助氏三女靜子孃と去る三月二日華燭の典を揚げ同三日披露の宴を張つた由である。

◆菅波勇氏　氏は故鄕たる四ッ倉町に今回齒科醫を開業された、氏は磐中廿壹回卒業生にして東京齒科醫專卒業にして四ッ倉郵便局長菅波富太郎氏の次男である。

◆井上貞治郎氏　磐城建物會社支配人たる氏は今回兼取締役となつた。

朝鮮群山府

釜山日報支社
大每通信員　北市喜多孝

當群山港の近況左の如く

戸數	内地人	二、〇五五
	朝鮮人	三、六四五
	支那人	一二九
	合計	五、八二九
人口	内地人	八、二七五
	朝鮮人	一六、〇七五
	支那人	五三八
	合計	二四、八八八
貿易（圓）	輸移出	四、五一七、七三六
	輸移入	一八、〇四四、〇三三
	合計	二二、五六一、七六九
主要移出品	米	一、六一二、三五七石 四、一九三、五三三圓

語平目

平町長は青沼、伏見兩候補の決戰投票を行つた結果二票の差で伏見氏重任

×

鹿島村の火災は近年稀に見る農村の火事である。事を未然に防ぐ『火の用心』こそ肝要である。

×

湯本裏山の火災の折同町屋上と言はず垣と言はず女の赤いオシメの花が咲いたとか、いざとなればどんな階級でも迷信は擔ぐものと見える。

×

石城地方の銀行受難も平銀常銀支店となりおちついた樣だが、磐銀は一体どうしたのだ、そして百七マッタ、實業銀行、四ッ倉銀行、磐越銀行は三回目の株拂込みをなし居る相だが大分非難されて居る、然し拂ひ込みさしたら預金は停止などせず支拂ふのだらうから一般預金者は安心すべきである、磐東は一人無風体の如く何でも二十五萬もあれば小口預金は拂ひ出せるとの事だから安心なものだ此處許、平は日露戰の支那の如きもので仙臺の『七十七』と水戸『常磐』の戰ひ誰か魚夫の利を制するものなきか。

×

時に元本社員の長谷川君磐城大衆新聞を創刊とかにて廣告募集中とか、而して保證金は植田の山崎氏が出す事になつて居ると言明して居るとの噂サそれが事實とすれば山崎君も隨分ものズキな人、兎に角此の種の未成の新聞は第一號出してから廣告を募集する事である、此の類似のもので植田で佐川君も大分廣告募集して第一號を出さんで居る同業の信價のため嘆ずべき事である兎に角長谷川君は以前何とかいふ新聞を出すさて廣告詐欺で發行未遂に終つた事あり繰り返さねばよいが。

平驛
愈々改築起工す

平驛は愈々東京鐵道局にて指名入札の結果平町丸山組に落札去る拾日より起工しその工程約四ヶ月工費四萬三千圓であると。

銘酒 由良乃助 特撰
（他の外來酒に比し絶對に遜色なし）
壹升瓶詰 一本 壹圓四拾錢（空瓶交換レッテル付）
壹斗樽詰 一本 拾貳圓（樽ヌキ）
『但從來の瓶詰價格並に空瓶交換の方法は從前の通り』
平町四丁目驛通り
永山酒造店總發賣元　電話二〇七番

本科 五十名
師範科 五十名
裁縫專修科 百名
專攻科 二十名
文部大臣認可 藤田女學校 生徒募集
詳細ハ本校宛學則請求「電話三三八」
願書受附 三月三十日マデ

磐城共濟病院組織
内科 小兒科（院長毎日診療）
院長 醫學博士 難波睦
副院長 醫學士 五十嵐雄二
内科部長 中西林藏
外科 内臓外科 整形外科 レントゲン科 專門
外科部長 醫學士 氏家憲介
毎日曜手術 醫學博士 鈴木退輔
産婦人科 女子泌尿科 レントゲン科
産婦人科部長 醫學士 五十嵐雄一
顧問 醫學博士 川添正道
×光線科
主任 醫學博士 難波睦
本院醫事法制囑託 法學士 岡蕃
本院主事 賀澤忠治
御大典記念事業トシテ
一、衛生試驗所（共濟病院内）十二月一日ヨリ開始
一、病氣相談所（共濟病院内）十二月一日ヨリ開始
一、救療所（共濟病院内）十二月一日ヨリ開始
磐城共濟會　平町 電話六四一番

新學期通學服
黑小倉 二圓二十錢ヨリ
上ヘル 四圓五十錢ヨリ
上サージ 四圓二十錢ヨリ
其他各種入荷
なかや洋服店　平 二、電話二〇三

理化學研究所製
吸入用酸素・酸素吸入器
優良ナル理研ノ酸素ノ御用意ヲ
平町四丁目 關内藥舖
藥劑師 關内榮助　電話四〇番

磐城セメント代理店
西村屋藥舖
平町二丁目 電話[illegible]三番

内科外科 一般診療
片岡醫院
片岡鎌三郎
湯本町驛前

植田町本町
森合齒科醫院
森合芳男

×光線科
[illegible]院
平町南町 電話一二九番

内科、小兒科、皮尿科
藤名醫院
平町紺屋町 電話五〇七番

植田町
片岡醫院
院長慈惠醫學士 片岡章
電話一〇七番

日本石油株式會社特約店
平町二丁目
油問屋 關内油店
關内正一
電話 長十六番 八三九番
支店 郡山市驛前 電話三二八番
支店油槽所 茨城縣多賀潟郡本驛前 電話三七番 平關

不思議な滋強靈液
まむしのエキス
本酒を用ひて適切に靈能の分る人々
養命酒は酒にして酒に非ず藥用として御婦人にも用ひ易く強力なる榮養素は惡疫を豫防し萬病を擊退する眞の健康の好伴侶なり榮養を貴ぶ人は勿論殊に
結核素質者○胃腸病○神經衰弱○精力減退○貧血性○不眠症○病後衰弱○婦人病ヒステリー○勉強又は激務に疲れ易き人○健康者朝夕の一杯元氣旺盛○其他慢性諸病に惱み醫藥に効なき方は論より證據先づ一瓶を試み其眞價を知り御愛飲あらん事を御薦めいたします
▲大瓶 五八〇瓦入 金貳圓
▲中瓶 四〇〇瓦入 金壹圓五拾錢
▲四季の御進物用又は病家の御見舞品として最も好適で御座います
平町五丁目
代理店 山野邊藥局
藥劑師 山野邊東次郎

書籍文房具類の御用は
平町貳丁目
清水屋書店に
電話百參拾壹番

磐城湯本
溫泉旅館
松柏館
電話五番

平町田町
高久病院
電話五三一番

磐城セメント特約販賣店
サビナイ。ヤケナイ。クサラナイ
石綿製セメント
朝日煙突
耐水。耐火。美麗。廉價

和洋銅鐵金物
平町五丁目
（久）釜屋商店
電話九番 一三九番
振替貯金口座東京一〇九五六番
◆良品廉賣に勝る商略なし 確實敏捷は（久）の生命なり

櫻花爛れ咲くの頃 平町會議員改選さる

立候補者の前觸れ噂サこりぐに連れ 先つ町内別にこれを觀る

平の名物松ヶ岡公園の櫻花咲き漫つ五月、平町議の改選期である。市制準備を控ねての大平建設の時に當り果して何人が選ばれるか。新法にての施行なれば戶別訪問は禁止、ポスター又は推選狀を以つて戰ふならんも理想選擧等と政見發表演說會を催す人なしとも限らぬ。國會や縣會と異り町村議はその町內、大字に立脚し親戚知己の多い人が勝ちとなるのは前例が物言ふて居る、勿論人物然りであるが第一町內から推さる丶人が有利である。其處で現町議二十九名中再出馬の人何名か、定員三十名に立候補者何名か、大分新顏の青年が名乘りを揚ぐる模樣であり、時の櫻花に負けず大混戰と見られて居る。目下それが噂さに上りつ丶ある人を町內別に觀るが政黨關係にて政民兩派と別る丶だらふが前記の如く町內に勢力なくしては到底當選は不可能であらふからそれぐ\町內々の公認者必ず勝利とは斷言出來ぬ其處に選擧の妙味があるのである。吾人理想から申せば町內や政黨を超越して人物本位、職業的代表を出したきは國縣ともに異論はないが、いつもながら情實關係又は後先鞏、政黨等との順序あるもの丶如く自治体發達のため嘆かはしい事である、要は町政のため町百年の大計をなす、民衆一般のため公益に向つて猛進する議員たらば何人も可なりである、それはそれとして、

一丁目　鷹崎貞衞氏出るとすれば渡邊貫一氏もともに兩出馬するべく比佐信太郎氏又義兄遠藤林松氏勇退と見てその地盤を當てに確實なる立候補者であらふから此町は一寸面倒である。

二丁目　は現町議丹野榮三郎、柏原眞吾の兩氏再出馬とすればそのま丶であるが、丹野氏引退とすれば區長山崎孝之助氏か關內正一氏に落ちつくだらふ。又三井文吉氏も出る如き噂サである、氏は緣戚多く出ないとも限らぬ、鈴木邦三郎氏は長息の就學中なれば當分公職にはつくまいと見て良い。

三丁目　現町議大谷久藏氏であるが引退と見られて居れば柏原幸次郎氏であるが此の人出まいと言はれて居り、三森虎雄氏の立候補噂サとりぐ\であり中野康平氏又名乘りを揚ぐるかも知れるが嚴父勇吉氏承認する否や。

四丁目　現町議阿部唯次郎氏であるが氏は再出馬するであらふ、氏曰く、僕が町議位の資格ありとすれば何時でも出る、一体平町政友會の横暴によりて町治を腐敗したるものであるからどうしてもこれが打破に向つて突進せねばならぬと某記者に力說せりとか、次は猪狩庄平氏を推するとの聲あり柴田德二氏はどうか消防代表として鈴木長三郎氏どうだ。

五丁目　は青年團長の馬目武之助氏が確實なる候補者であり、現町議員星野淸吉氏はどうか、井上茂作氏全然出でず若い者に讓ると言明して居るその者は貞治郎氏かどうかは疑問である、諸橋守次氏の聲もあるが氏は將來貴族院議員の可能性ある人町議には出まい、寧ろ令弟元三郎氏を推すの說が釜屋出入の人々から叫ばれて居るが面白いものである、山野邊東次郎氏の噂サもあるがマサカ自家業を措いて出る如き氏でもあるまい。

六七丁目　は現町議荒川淺次郎氏の再出馬か一寸見當がつかぬ。

鎌田町　は現町議佐藤岩次郎氏か高田淸一郎氏か岡田千藏氏の聲がある樣だ。

新川、月見町　であるが現町議、諸橋國松、吉田定太郎の兩氏は引退と見られて居り、松崎菊三郎氏は又出るかも知れぬ新顏では一寸見當らぬが若い人が出るであらふ。

南町　へ來て、大森勇萩原義雄の現狀維持と見られ、眞木桓氏も出る樣な話もある。

鍛冶町　は區長の國府田直良氏を全町推して居る樣だが氏が進んで出るかどうか、吉田由三郎氏を推す樣な話もある、此處に山田盤磨氏南町へ轉任せざれば氏は推さる丶可能性あつたのであるとせられて居る

材木町　へ行つて阿部太平氏は再出馬するかどうか、石山治三郎氏が出る事になるだらふとの事である。

長橋町　遠藤林松氏は引退との噂サであり、遠藤松之助、川崎文治、小野圓治郎氏等との事一寸判らぬ。

古研町　は佐藤芳松氏再出馬せぬとの噂サであり、山崎淸三氏も出まいし區長神谷亥三雄氏を推すならんも吉村安次郎氏におちつく所か。

紺屋町　加納五郎、會川卯三郎兩氏とも再出馬すまじく、吉田寅之助、佐藤作平の兩氏が出るのかも知れぬ。

掻槌小路　へ來て阿部政右衞門氏確實出ると見て良く、吉田五平氏緣川喜三郎氏山野邊義政氏酒井喜代正氏門傳淸吾氏安藤琢磨氏永野柳造氏等多士濟々である、結局の所何人にきまるか觀物である。

田　町　野崎滿藏氏町內はさておき民政黨として氏を出さぬ事あるまい。岩本重雄氏引退か、森本盛一氏退くとすると鈴木條三郎氏か、馬目雄次郎氏だが阿部氏出るとすればそうも行くまい、新顏では酒井淸氏か掻槌小路へ轉じたが千葉彥治氏を政友系は推すであらふ。

白銀町　は、かつて落選の唯一人者たりし高橋龜松氏必然名乘りをあぐべくおさ〱準備は今々ではないと聞く、現町議櫻井淸氏も出るであらふ。

鐵道以北　へ行つて佐々木龍若氏再出馬はどうか、若松武一郎氏との聲もある。

大工町　は多田井笑次郎氏の聲が漲つて居り當人もその色氣ないわけでもあるまい。

北目胡摩澤　は花澤久一郎氏の現狀維持か。

城　山　靑沼鉾太郎氏又推さる丶であらふ。

久保町　は永山義太郎氏か荒川恒次郎氏どうなるか問題。

歸する處定員三十名より何名越ゆるか、過般は一名のみにて意外な人に御鉢が巡はる事あり、とどのつまりへ行つて結局は協定に協定四五名と觀て四十名の立候補者はあるまい、兎に角、自身のある勇士は自ら進んで出るのも良いが、一般から推されてこそ出で初めて立候補替へあるものであるべく又かくの如き人常に人を推して力めて居るから默つて居つても人が推す事となり當選し得るのである。要するに平常が肝要である。

再び肺結核の豫防に付て〔三〕

湯本町　片岡鎌三郎

去れば吾人は、肺結核の傳染は殆んご問題にならぬけれごも、濃厚活動型菌の頻々感受するは、絕体に不可なりだが、訪問したや、對話したや、湯飮み茶飮み位を恐る丶に足らぬ、只徒らに恐怖するのは愚の至りだ原榮博士は、結核菌のみの浸入にては決して發病せずと云はれた。一般學者は、結核重感染發病は精神病者の發病位だと英國の學者は、肺結核の傳染發病は、癌腫の發生位の數だと云はれてる。兎に角結核の傳染發病は極めて僅少なものだ。潜在結核が大切なのだ、一般世人は、痰が出る咳嗽が出る、顏が蒼白くなつた、ルイ瘦した、体重が減つたあれは肺病だと云はれる頃は早や已に時期遲い、或程度の敷居が超へた時だ。驚いても騷いでも、煩悶しても悲んでも、泣いても遲い其病狀殆ご無いか、單に神經衰弱の樣だとか、疲勞性だとか、發汗性だ、寒冒僻だ位に思つて氣にも止めない位の時が大切なのだ、其處を能く理解して貰ひたいのだ、今日の如く一般人が結核に無理解、恐怖病に罹つてる樣ではだめだ、之れは從來の宣傳が誤つて居たのだ、夫れでは豫防など、とても及びもつかない、只々今の有樣では結核病者ぎやくたい、脅迫する許で實に慘酷の極みだ、悲む可き狀態だ、嗚呼何としたらよいだろう、肺病者は他の赤痢やコレラの如く嫌はれ、病者自身は死形囚の如く屠所の羊の歩みの如く、悲哀のドン底に喘ぎ、阿鼻叫喚の地獄にもがきつ丶ある有樣だ、爲政家も敎育家も宗敎家醫家は勿論、擧世協力救濟の途を講ずるのは、尤も急務である、醫者は病を癒すは勿論本務であるが出來る限り、講話なり宣傳なりして人々の誤解を正してやらなければならぬと思ふ肺病を徒らに恐怖するは猿の尻笑ひで、自分を知らぬ滑稽事だ、洗ひ晒せば同穴の狸、唯有體に出てるのと潛有してるの相違、詮じ詰めれば五十步百步、保菌の點は同じだ、其の保菌は其人自身を免疫しづゝ生活してをるのだ、彼の頸腺結核（ルイレキ）も昔は結核菌集合所と思ひ誤り、無暗やたらに切除したものだが、今日の學問上では免疫の製造所である、肺病の守り本尊だから、止を得ざる場合の外切除してはならぬ、夫れに頸腺が腫れるのは已に肺内部の腺が腫れてるのだから、只其枝葉をのみ剪去してもだめだ、切除しても亦出る、際限が無い、其根源を除くのが大切なのだ、ルイレキ切り取り專門先生は顏色あるまい、夫れを徒らに心配する病者も愚な事だルイレキが肺病の序幕の樣に考へるのは大誤解だ、余り大くなつて、壓迫が強く止を得ないから切り取る迄だ、根本の肺門部淋巴腺腫の本尊や、免疫製造の本尊は手を拍て笑つてるだろうお氣の毒の次第でらる。夫れ程に結核が恐ろしいなら、斷然人間廢業届をエンマ法廳へ屆けるか、天涯萬里に去て、人類と沒交涉となり、仙人生活より外道なしだ、實に憐む可き朦昧な結核恐怖病者だ。現今結核感染率百人中百人と見て誤りなし、夫れで注意を要する者百人中三十人ある、即潛在結核病者であると、一般學者は云つてゐる、故に成人皆肺病者とは云ひないが、感染して結核は保有してある、とは云ひ得る、只比較的無害の狀態にある者、潛在性となれるもの或は潛在に移行しつ丶ある者、是等の道程多種多樣多型、去れば治療を要する者と要せざる者との區別は不可能である。

◇

◇

藤田女學校の昇格と

沿革及び現內容

平町藤田女學校が昨年十一月昇格に際し同校藤田榮助氏は左の如き禮狀を各所に出して居る該文にて同校の內容と氏の理想と努力を知るべし。

肅啓一代の御盛典を迎へ御同慶至極に御座候

扨て弊校も日頃貴殿等の熱誠なる御後援に依り年と共に進展仕り候處今般其筋の認むる處となり本月七日附を以て文部大臣の認可指令に接し候ひ實業學校（甲種程度）に昇格仕り候　從而新制後の本校卒業生は女子の專門學校入學或は中等敎員受驗資格を附與せられ候

曠古の御大典に際し此の吉報に接す獨り本校の光榮たるのみならすと存じ候

回顧すれば明治三十二年藤田私塾創設以來三十有一年その三十八年學校組織に變更せられ候よりも今に二十有四年の沿革を有し候　其間時代の推移につれ內容の刷新設備の擴張整正に幾變遷を重ね候而も終始私學經營の辛慘を嘗め候も強く堪えて焦らず無理せずたゞ私學の使命と敎育の理想を理想として牛步ながら堅實に內容的質的に推進仕り候難事中の難事と謂はる丶私學經營に於て幸に途上挫折の悲運にも逢着せず今日に至る誠に望外の幸福と存じ候

この間湯本分校及江名分校の設置を見卒業生を送る千七百九十八名、五百余の現在生を擁す今に其責の重且大なるを痛感致し居り候

頃日女子高等敎育の普及私學助成の提唱旺盛なり將來更に努力して緩みなくば私學の向上權威期して待つ可く獨り本校の榮譽のみならずと存じ候何卒將來共何分の御後援願上候こゝに日頃の御厚情に對し謹んで御禮申上候

×

×

入山採炭

九名の役員減

自治會長は松繁氏

會館の設立

入山採炭會社は今回山野邊良吉氏外八名の役員減員をなした、尙ほ同會社の立國勞働自治會長馬目子之松氏の後任は同顧問たりし松繁庄一氏就任し引いて同會會報の發行編輯人は菅原道一氏となつた、又工務所は工費二萬圓を投じて現第五抗隣りに移轉し從來の工務所は大改修をなして自治會館となし修養會場となし時折活動寫眞等も無料公開する由にて從業者の生活向上に志す事務部長吉田宗雄氏の心遣りが思はれ同會社從業員の幸福といふべきである

平銀から 常銀への

新陳容

去月十六日を以つて平銀行は常磐銀行平支店となつたが引いて各支店もこれに順じ改稱され左の人々がそれぞれ任命された。

平支店長　中村梅三郎
四倉出張所主任　松本　健
勿來支店長　山本　保
湯本支店長　谷田部宗造
原町支店長　幡谷　藏次
浪江出張所主任　山森　正保
小高出張所主任　眞木　修

草野局

電話開通

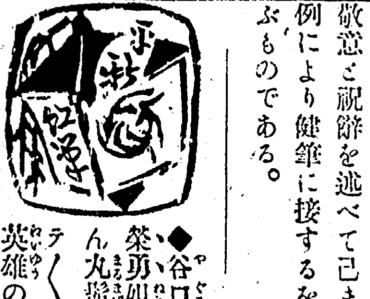
草野郵便局では三月一日より公衆電話開通せりと。

動中靜觀

資格なき　未成の否な失格した新聞、時事問題とは何も惡口をかくから時事問題でない、活辯士が郡山へ行つた、飛行機が平へ來た、これで時事問題なのだ、平館のニュースにも時事問題がある、賢明なる平署の伊藤特高主任健在なりや〇〇につぐに集團の力を借りて遊興するヤカラを、それに御馳走になつた〇〇があるから、世の中は季だテ。

地方新聞　には地方新聞の個性がある、夕刊は夕刊として旬刊は旬刊として、然し今朝磐城版を見て居ると、今夕夕刊に同じ記事が出て居る樣ぢやどこに夕刊の存在ありや山崎氏たらずとも嫌らぬは當然な事である。

磐城之實業　暫らく振りで大和田與平氏の經營する磐實紙を手にするを得た、うちでも三面の『磐城財界の今昔、二大支店の活躍振り』の記事は吾人の言はんとする所吾人の希望を代辯してあまりある、氏は目下殖産合同社にて煉炭製造販賣に熱走し操觚者としの氏は將に實業家として及第の域に到達せんとして居る、氏の晚年のため滿腔の敬意と祝辭を述べて已まぬ例により健筆に接するを屡ぶものである。



◆谷口の榮勇姐さん丸髷ボテ〱と英雄の末路は悲しからず日東の蔭にいや榮ゆとなん◆同じく勇滿期除隊イカグリ頭六尺も居らぬ事ともに目出度い事にこそなんめれ◆眞佐の家から富丸と名乘る新妓は安達が原は二本松町よりの上り◆小名濱から來た吉野家の多助は湯本へと鞍替へして新龜で小糸◆久松は三線より踊りが得手、ある席で月子、久松に〇〇引きなさいと來たそこで久松、アタイは踊るんだと許り觀音開きで勇敢な舞、月子がこの舞を引いたかごうかは知らぬが、人の不得手につけこむ心情が憎くいと盛んに月子の心情を難して居る醉人は誰か、月子たるもの三思すべきかな。◆久本の小夜子、不思議がつて曰く『銀行の人つてごうしてアンナニ金があり費ひるんでせう？』とそれは高助か春子に聞いて見給へ判るサ〇〇さんの即答。◆吉野家には小若と名乘る妓が出た福島からの下り。◆平の妓は良く中村へ行くが吉野家の小柳も中村は三行へ轉じた。◆去る六日午前十時五拾分平發上野行の靑へ乘込んだ妓は谷口の富美勇、同乘者は本町通りの〇〇外に寒空に外套も着ぬ若い書生風の男、これが頗る珍對象だが水戶の觀梅とシャレたのかも知れぬ。◆品澤の小そのいゝ見えぬ樣だが鞍替へかなどいふも早いもんや。◆縮り屋の磯齋、ある席で松月のラヂオ五拾錢を奮發したがさて勘定となつて一圓ごころか一錢の祝儀も出す五拾錢を儲け樣として五拾錢の出し損だつたとサ。◆久本のおはんい太る事肥る事、所當人大した皆にもせず此の肉休美で異性をチャームするのだと來て居るからスゴイもの。◆玉川のうさ子姐さん何のためか臨時休業とある經過いかがです。

產婆看護婦　生徒募集
願書四月八日迄（可成至急）
修業年限　產婆看婦科ヲ通ジテ一ケ年
平一丁目
石城（產科婦看護婦）學校
電話三五七番

生徒募集「募集人員」

本科第一部	二ケ年卒業	五十名
全科第二部	三ケ年卒業	五十名
技藝高等科	二ケ年卒業	五十名
全　專攻科	一ケ年卒業	三十名

願書受附三月末日迄、學則請求ノ方ハ郵券二錢封入ノコト
文部大臣認可
平陽女學校
平町　電話四四五番

生徒募集
☒婦人にも職業の必要な時代が參りました
そして婦人に最もふさわしい職業は
產婆看護婦でしょう
一ケ年で卒業が出來、收益も多大で又家庭の一助ともなる產婆及看護學をお薦め致します
（入學無試驗）
平南町　平（產婆看護婦）學校
淸野きよ
☒申込期日四月八日迄
電話三〇七番

春衣大賣出し
春の催
◆スター好み春衣モス着尺陳列　三月十日より
◆帶皮陳列　三月十五日より
◆銘仙陳列　三月十日より
◆富士絹陳列　七彩會友仙モス陳列
☒御進物に優美なる丸龜商品券
☒祝儀物萬端揃ひました
☒何でも間に合ふ不祝儀物は丸龜へ
中野呉服店
平町三丁目　電話六十七番

社員募集
意志强固にして向上心に富む新聞事業に興味を有する青年社員二名を募集す希望者は來談ありたし
平新報社